

特集 学修を

バージョンアップする

BYODとVDIって、なに？

ズバリ私が
お答えします



情報科学センター長
高橋 裕 商学部教授



専修大学で今年度から導入されたBYODとVDIは、学生の学修環境を大きく変えることになり、そして、これはSiUグローバル・スマートキャンパス構想という未来の大学ビジョンにつながるという。とはいえ、「BYODやVDIってなに？」という方も少なくないはず。そこで、BYODとVDIの導入を主導する情報科学センターの高橋裕センター長に一からやさしく教えていただきました。

Q 今年度から始まったBYODって何ですか？

A 大学でBYODというときは、「学生一人一人が自分のノートパソコンを大学に持参し、授業等で利用する」ことを指します。なおBYODとはBring Your Own Deviceの頭文字をとったIT用語です。

Q 学生の学修環境が変わるのでしょうか？

A 昨年度までパソコン実習を伴う授業では、情報科学センターの端末室に設置されたパソコンを利用する必要がありましたが、今年度からは学生さんが持参する各自のパソコンを使うようになります。

Q BYODのメリットは何なのでしょう？

A これまでパソコンを利用する、あるいは利用すればより深い学びにつながる科目は、「端末室の空室」があることが成立の要件でした。しかし、今は多くの科目が「パソコン実習を行いたい」というニーズを持っています。BYODにすることで、端末室に縛られずにいつでも効果的な実習を伴う授業が可能になります。

Q 授業の風景が変わりそうですね。

A その通りです。実際、パソコン実習を中心とす

る授業以外でも学生の皆さんにたくさんのメリットがあります。例えば、これまで大型スクリーンや大型ディスプレイで提示されていた資料が手元のパソコンの明るい画面で閲覧可能になり、より細かな所までわかりやすく関心を高めながら学修することができます。

Q 学び方も変わるということでしょうか。

A はい。例えば教員があらかじめ処理・加工した情報を配付するという教室風景はどこでも見られるものでしょう。しかしこれでは、テレビ番組を見るような一方的情報受信にすぎず、十分な理解や高い関心を持つに至らない可能性があります。ここでBYODを活用すれば、授業で学生さんが加工前のデータを受け取り、その場で自分なりに処理することもでき、学びのレベルが格段に高まります。

Q ほかにBYODのメリットはありますか？

A それをご説明するには、BYOD導入前までの実習環境の課題をご紹介するとわかりやすいと思います。これまで大学のパソコンは4～6年で総入れ替えをしてきました。しかし、より適切な時期にア

アップデートできず、学生さんの実習環境が世の中よりも遅れた状態になりがちという課題がありました。また、千台以上のパソコンを同時に調達するために、導入時点ではどうしても半歩遅れの機器になりがちなことや、世界的な半導体不足などの学外の環境のために整備が計画通り進まないリスクがありました。

これに対してBYODにすることで、常に比較的新しいパソコンで学修が可能になります。仮に入学時点でご用意いただければ、途中で買い換えなくても4年生になってもまだ「3年前の製品」という、それほど使い勝手の悪くないパソコンを利用していることになります。

Q それはいいですね。でも、パソコンの設定や高度なソフトウェアの導入は難しくないでしょうか。それに学生のパソコンが多種多様だと、先生方も大変そうですね。

A その課題を解決するのがVDI (Virtual Desktop Infrastructure というIT用語)なのです。VDIは手元のパソコンを操作することで、別の所にある高速・高性能なコンピュータを操作しているという状態を実現する技術です。本学では日本マイクロソフト社と契約し、設定が必要な専門的ソフトウェアをVDIで利用できるようにしました。これにより、学生の皆さんがソフトウェアの導入や設定で悩むことはなくなります。また、VDIに接続してしまえば、その中ではどの学生にも同じ仕様や環境になっていますから、教員の指導効率も維持できます。

Q これまで学生が利用していた大学に設置されたパソコンはなくなるのですか。

A なくなりはありませんが大幅に台数を減らします。これらは主に自分のノートパソコンが故障したなどのトラブルに見舞われた学生さんのためのものです。

Q 学生にとって、パソコンを用意するのは、負担にもなりますね。

A はい。しかし、それ以上の恩恵があります。まず、端末室が混んでいる時や大学が閉まっている時でも、今後はいつでもどこからでも大学のコンピュータリソ



ースを使えます。卒業論文などに取り組む学生にとって、大変便利です。情報科学センター以外の部門のサービスの利用も便利になります。例えば大学の図書館では電子雑誌や電子書籍も用意しており、好きな時間に快適に閲覧できます。専門雑誌や書籍は大きな図や表が多いので、画面が大きいことや高速な処理が可能であることは、大きな利点です。加えて、就職活動でパソコンが必携になっていることも事実です。

もちろん、大学は今後もインフラ等の整備を進め、学生さんがBYODパソコンを縦横に駆使して学生生活を充実したものにしていくことに注力します。パソコン購入を負担に感じるかもしれませんが、負担以上の恩恵があります。何卒ご理解願います。

Q 専修大学が変わっていくように感じました。今後、どのようなビジョンがあるのでしょうか。

A 来年度からは「SiU グローカル・スマートキャンパス」を導入すると佐々木学長は発言しています。これは、教育効果や研究効率を向上させるため、AIを駆使しながら、学生の学修選択・進捗把握・目標設定そしてキャリア形成等へのサポート機能や教職員の研究・教育活動への支援機能を実装したデジタル教育研究システムの構築を目指すということです。今年度から導入されたBYODとVDIもそのための環境づくりと言えます。

大学推奨のPC、ネット環境

■パソコンについて

専修大学では以下のスペックあるいはこれより高機能なものを推奨しています。

パソコン：ノート型 (モバイルタイプ、キャンパス内で持ち運ぶことを想定し、重量1.5kg以内、バッテリー駆動時間カタログ値で8時間以上が望ましい)

画素数：1920×1080 (フルHD) 以上

OS：Windows11 Home Edition または Windows11 Pro Edition 以上

CPU：Intel Core-i5 11世代 (相当) 以上

メモリ：8GB 以上

記憶装置：SSD256GB 以上

無線LAN：IEEE802.11ac/a/b/g/n 対応

マイク/カメラ機能：必須 (内蔵もしくはUSBやBluetooth等での接続)

※ Microsoft Office (ExcelやWord等) は入学後に無償でインストール可能のため、Office無しモデルを推奨します。プレインストールのOfficeをアンインストールしなければ、大学で配付しているOfficeは導入できません。

※ 大学推奨キャンパスパソコンは専修大学購買会でもご案内しております。

※ ネットワーク情報学部及び国際コミュニケーション学部日本語学科の新入生は、パソコンを大学で一括購入するので、ほかに購入する必要はありません。

■遠隔授業用の自宅のネット環境について

容量制限や回線の速度制限を気にすることなく利用できる環境を推奨します (光回線などの固定回線、容量上限の大きいモバイルWi-Fi等)。